

法衣(袈裟)

袈裟の色と階級

| | | |
|-----|------------|----------------|
| 赤色 | 【緋色(ひいろ)】 | 大僧正(だいそうじょう) |
| 紫色 | | 僧正(そうじょう) |
| 緑色 | 【萌黄(もえぎ)】 | 僧都(そうず) |
| 黄色 | | 律師(りっし) |
| 水色、 | | |
| 茶色 | 【木蘭(もくらん)】 | 僧階に関係なく着用する。 |
| 黒色 | | 得度式や修行の時などに着る。 |

緋色(ひいろ)は、

植物のアカネの根を原料とする茜染の一種で、濃く暗い赤色を茜色というのに対して、最も明るい茜色を緋色という。

赤、紫、緑、黄色、水色、茶色、黒。色とりどりの衣をまとったお坊さんを眼にして地位を表す。

お坊さんが1番上に着けているのがお袈裟で、その下に着ているものが衣です、真言宗では”**緋色(ひいろ) ←紫←萌黄(もえぎ) ←黄←浅黄**”と云う順に、お防さんの位によって衣の色が決まって居ます。もともとは、緋や紫の衣は、「大僧正など」の高地位の僧侶などに、天皇から下賜されました。現代では宗派の高僧のみが袖を通します。

これらの色衣とは別に、僧侶の立場に関係なく、着衣される木蘭(茶色)や黒の衣も有ります。

緋色(ひいろ) やや黄色みのある鮮やかな赤で、平安時代から用いられた伝統色名
濃く明るい赤色。

萌黄(もえぎ) 鮮やかな黄緑色系統の色

木蘭(もくらん) 赤みのある灰黄色

資格を取得する方法に大きく2つあります。

1つめは、高校を卒業し総本山智積院内に設置されている**智山専修学院**または大本山成田山新勝寺内に設置されている**成田山勸学院**に入学し、1年間在山、所定の修行をなして卒業する。

2つめは、宗派が設立母体のひとつとなっている**大正大学**に入学し、長期休暇期間を利用し、総本山智積院にて修行、かつ指定された教学の単位を取得し卒業する。

【僧位】 僧正・僧都・律師とあり、

僧正(そうじょう) はそれぞれ『大・権大・中・権中・少・権少』の**6**階級あり、

僧都(そうず) はそれぞれ『大・権大・中・権中・少・権少』の**6**階級あり

律師(りっし) は 『大律師・律師・権律師』の**3**階 合計**15**階級ある。

【法衣】

権少僧正(ごんのしょう そうじょう) 以上は紫色(大僧正は大法要などの時は緋色)

権少僧都(ごんのしょう そうず) 以上は萌黄色(緑色)

権律師(ごんの りっし) 以上は浅黄色(水色)

僧階を取得して日の浅い者は黄色

紋白五条 (もんじろ又はもんぱくごじょう)



紋白五条には「紫色」と「緋色」とがあり、地方では権大僧正以上は緋色をつけることが出来ます。名の通り紋が白く織られ、紋を見て派が解ります。高野山なら「桐」に「三つ巴」、大覚寺派や御室派は菊の紋、など。現在成田山の紋白五条の紋は寺紋の「葉牡丹」です。元は道中用だったのが今では礼装用として使用されます。



大僧正しか着ることが出来ない緋色の袈裟

左の写真=橋本大僧正（貫首）が大導師を務める様です（貫首の場合は大導師と大が付きます）
右の写真を見ると今回の御護摩の導師を務める僧正は法衣が紫であるから大僧正ではない。

大本堂へ向かう僧列

一般的な僧侶の持ち物

数珠 = 南伝の流れをくむ上座仏教には用いられず、北伝のいわゆる大乘仏教に用いられる。種々の理念が付加されて、現在各宗派ではそれぞれの様式を異にしている。

払子 (ほっす) = 長い柄の先端に羊毛をよった毛や、麻や古布をさいてよったものを束ねて取り付けたもの。修行のさいにハエや虫、ちりを払う道具であった。釈尊当時には律で使用が禁止されていたが、北伝仏教では儀式の際に威儀 (いぎ) の為用いられる。

如意 (にょい) = 俗にいう孫の手で、かゆい所をかく用具。中国伝来後、威儀のために用いられる。

扇 = 日本で創案されたもので、天台、真言系では檜板で作られた生地のまま檜扇を用い、正装には中啓、略装には妻折の扇子を用いる。僧侶の扇は、**朱骨**が通例となっている。



数 珠



払 子 (ほっす)



如 意 (にょい)